

複合養殖導入による経営改善効果

マダイと他魚種を複合養殖した場合の収益リスクとリターンについて

- 三重県の魚類養殖業はマダイの単独養殖を営む経営体が多く、経営収支はマダイの価格変動の影響を強く受けます。
- そのため、養殖経営の安定化を図るには、マダイのみに依存しない少量多品種養殖（複合養殖）を進めることが重要な戦略の一つとなります。
- そこでマダイと他魚種の複合養殖を導入することによる経営改善効果について、本県の養殖魚の流通価格のデータを用いて検討しました。

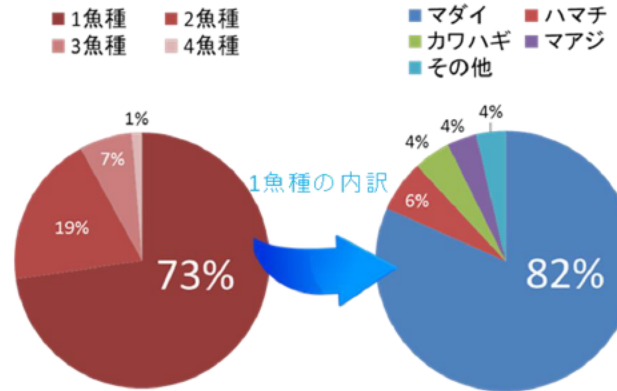
【分析結果】

●マダイとマハタの組み合わせを事例として、月別の価格の増減を収益率とみなし、2魚種を組み合わせた場合のリターン（収益率の平均）とリスク（収益率のパラツキ）を推定しました。

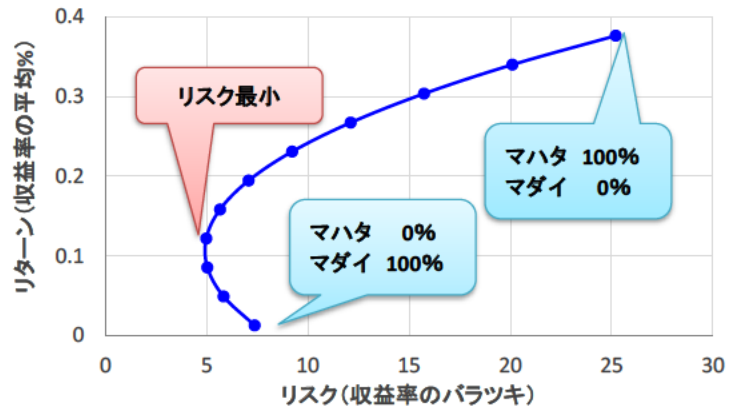
●その結果、複合養殖を行うことにより、リターンの増加とリスクの低減が図られ、経営改善の効果のあることが明らかとなりました。リスクを最小化するマダイ：マハタ比率は、概ね7：3と計算されました。

●こうした効果は、マダイとハマチ、マダイとシマアジの組み合わせでも認められました。

1経営体あたりの養殖魚種



マダイとマハタの比率を変えた場合のリターンとリスクの変化



三重県水産研究所 尾鷲水産研究室

Mie Fisheries Research Institute

〒519-3602 尾鷲市天満浦古里215-2

TEL (0597)22-1438

FAX(0597)22-1439